



★TAC農業所得20%アップ2020（2020年の目標達成に向けて）

PDCAサイクルでの昨年の反省点・・・一番は水稻収量の低下が考えられます。

TACとして今年度は水稻の収量を向上させることを第一に農業所得向上を目指します。



TAC農業所得20%アップ7月～8月共通目標

- ① 穂肥実施前の計画、遅れないように実行。(栄養確保)
- ② 出穂後も飽水管理の継続(水)。
- ③ 出穂日から収穫期を予測し品種、圃場ごとの収穫日程計画(適期収穫)

① 穂肥実施前の計画、遅れないように実行。(栄養確保)

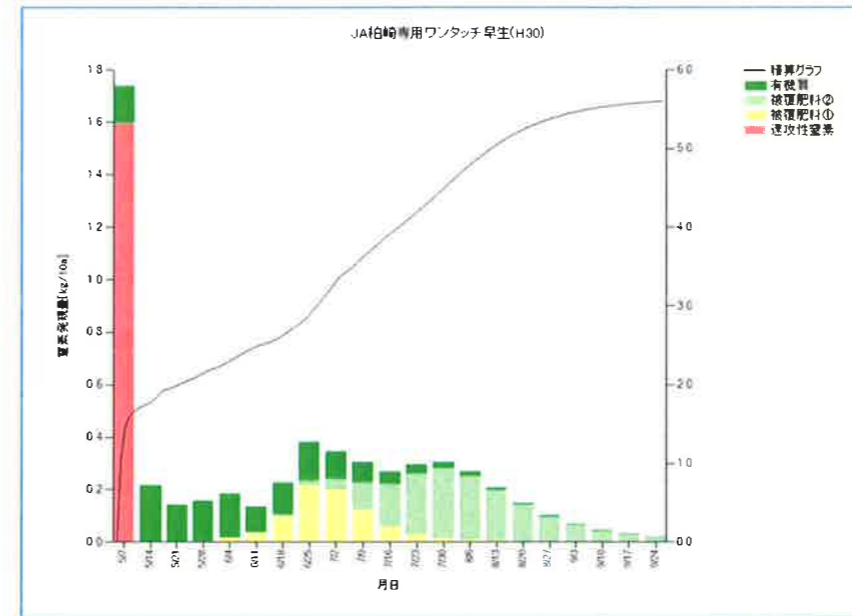
出穂期予想日は7/23現在に予想しました。

品 種	田植基準日	出穂期 予想日	1回目穂 肥 (出穂前 日数)	2回目穂 肥 (出穂前 日数)	使用肥料 (例)	肥料ごとの10a 当たり穂肥 施肥量
葉月みのり	4月25日	7月14日	6月24日 (23日前)	7月3日 (13日前)	穂肥520号	1回目：10kg、2回目10kg
越路早生	4月22日	7月15日	7月2日 (18日前)	7月10日 (10日前)	穂肥520号	1回目：7kg、2回目7～10kg
新潟次郎	5月3日	7月14日	6月23日 (25日前)	7月4日 (14日前)	塩安	1回目：12kg、2回目12kg
					尿素	1回目：7kg、2回目7kg
ゆきん子舞	5月5日	7月24日	7月1日 (25日前)	7月11日 (14日前)	穂肥520号	1回目：20kg 2回目：20kg
こしいぶき	5月7日	7月23日	7月3日 (23日前)	7月12日 (14日前)	穂肥520号	1回目：10kg、2回目：10kg
コシヒカリBL	5月10日	8月2日	7月16日 (18日前)	7月24日 (10日前)	越後の輝き 有機穂肥	1回目：8～12kg、2回目：8～ 12kg
新之助	5月15日	8月7日	7月18日 (21日前)	7月27日 (12日前)	穂肥520号	1回目：8kg 2回目：10kg
あきだわら	5月5日	8月7日	7月14日 (25日前)	7月25日 (14日前)	穂肥520号	1回目：20kg 2回目：20kg

JA一発肥料は今後どのように窒素がとけだすのか？

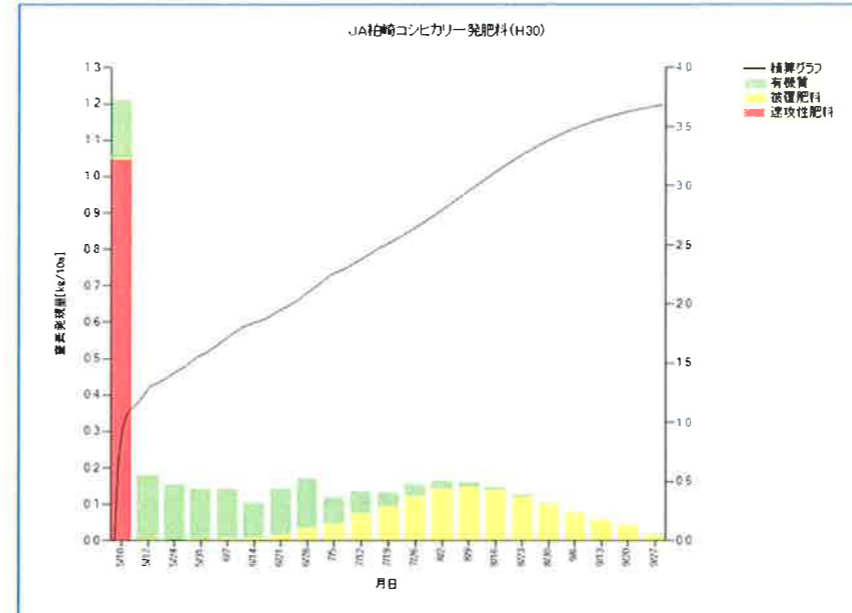
柏崎のアメダスデータ(気温)を活用し7月16日現在でシミュレーションしました。

① JA柏崎ワンタッチ早生(5月7日施肥、40kg/10a) 試算



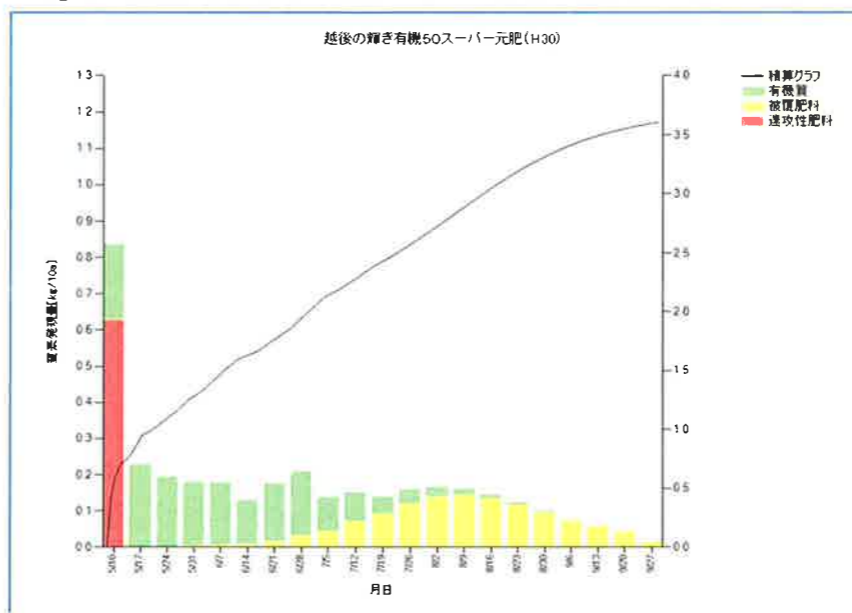
40kg施用で・・・  
**被覆肥料①** 窒素量合計 0.8 kg  
 つなぎ肥で溶出はほぼ終了。  
**被覆肥料②** 窒素量合計 1.76 kg  
 7月19日現在で約半分の窒素  
 が溶出しています。

② JA柏崎コシヒカリ一発肥料(5月10日施肥、35kg/10a) 試算



35kg施用で・・・  
**被覆肥料** 窒素量合計 1.47 kg  
 7月19日現在で約3割の窒  
 素が溶出しています。

③ 越後の輝き有機50スーパー元肥(5月10日施肥、35kg/10a) 試算



35kg施用で・・・  
**被覆肥料** 窒素量合計 1.435 kg  
 7月19日現在で約3割の窒  
 素が溶出しています。

従来の上記の一発より・・・

- ・赤の初期の速効性窒素は少ない
- ・緑の有機質は多い
- ・黄色の穂肥成分量は変わらない。

## ②出穂後も飽水管理の継続（水）。暑い日が続いています。白未熟粒防止

出穂後 10 日間はやや水管理は深めその後は飽水管理をお願いします。落水は出穂後 25 日以降で早期落水はやめましょう。（根の活力維持で籾へのデンプンの転流をスムーズにします。）ただし、スタークル粒剤散布時はごく浅水、深水ですと薬剤効果が劣ります。

## ③出穂日から収穫期を予測し品種、圃場ごとの収穫日程計画（適期収穫）

収穫期等の準備をお願いします！！

品 種	幼穂形成期	出穂期予想	収穫期目安
葉月みのり（積算温度 950℃）	6月22日頃	7月14日	<u>8月17日</u>
新潟次郎（積算温度 1,000℃以降）	6月25日頃	7月17日	<u>8月19日</u>
越路早生（積算温度 950℃）	6月25日頃	7月17日	<u>8月18日</u>
こしいぶき（積算温度 975℃）	7月2日頃	7月23日	<u>8月28日</u>
コシヒカリ（積算温度 1,000℃）	7月12日頃	8月 2日	<u>9月 9日</u>
新之助（積算温度 1,050℃）	7月17日頃	8月 7日	<u>9月18日</u>

収穫期予測は7月22日現在 暑い日が続いており、出穂期、収穫期目安とも早まる可能性があります。

## ★JAグループ独自農業支援のご紹介★

### 「にいがた農業応援プログラム」の創設について

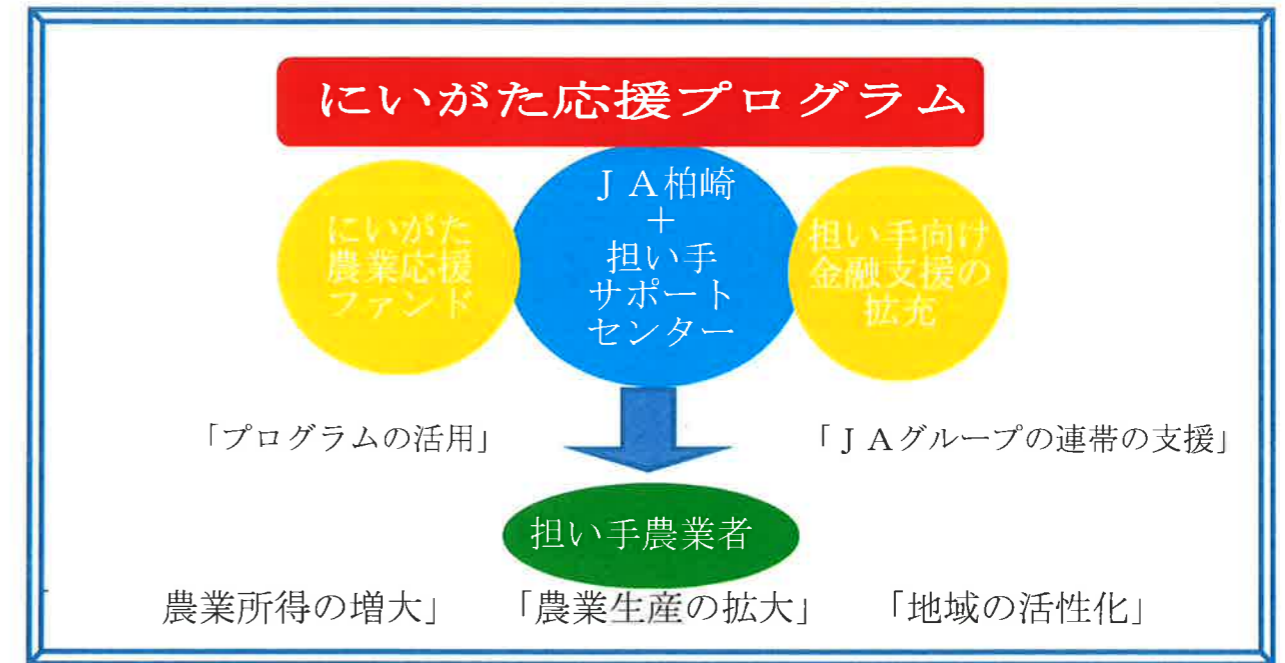
JAの自己改革、3つの基本目標（農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化）を具体的に実現していくため、平成28年～30年度の3年間における担い手支援策をまとめ、「にいがた農業応援プログラム」として、パッケージで提供することといたしました。

このプログラムは以下の3本を柱とし、担い手向け直接支援となります。このプログラムはJAグループ新潟として、JA柏崎、中央会・連合会で連携し、担い手へ踏み込んだ支援に積極的に取り組ましますのでご活用ください。

ご不明な点につきましては、本店営農指導課（TAC担当）までお問い合わせ下さい。

#### 1. 「にいがた農業応援プログラム」で掲げる3本の柱

3本の柱	プログラム実施名称
1本目	「にいがた農業応援ファンド」の創設
2本目	担い手向け金融支援の拡充
3本目	プログラム推進・支援体制の構築



#### にいがた農業応援ファンドの創設

課題克服にチャレンジする担い手に必要な資金の一部を助成します。

メニュー	平成30年下期助成金予算総額
①「JAグループ新潟 営農・経済改革プラン」推進事業	4,000万円（県域共通）
②加工・流通・販売の促進応援事業	1,000万円（県域共通）
③親元就農応援事業	3,000万円（県域共通）

メニュー	対象者	事業内容	助成内容	募集期間
①	改革プランに沿った取り組みを実践する農業者（法人含む）	「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」につながる取り組みを支援します。	対象費用の50%以内（上限100万円） 園芸生産において農業生産の拡大や農産物販売高の増加につながる取り組み（資材費、農業機械設備等）	平成30年10月1日～平成30年10月31日まで
②	自ら加工・流通・販売に取り組む農業者（法人含む）	必要な機械・機具の取得費、研究開発費等支援で生産拡大に取り組む所得向上を図る。	対象費用の50%以内（上限100万円）	平成30年10月1日～平成30年10月31日まで
③	親元へ就農する子（孫を含む）またはその配偶者 ※注1	親元で新規就農する場合の親元へその営農費用を助成し、農業を通じた地域の活性化につながる。	1事業者あたり上限30万円、親元農家の子（孫含む）またはその配偶者であること。3親等以内	平成30年1月1日～平成31年3月31日まで

※注1 平成28年1月1日以降に就農し45歳未満の方、募集期間につきましては平成29年、30年と継続する事

お問合せ先 営農指導課 TEL0257-21-2095